

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



(Photo: W 79th St. 左端が「Cafe 2000」)

《貧乏だけど常連さん Part-2》

前回に引き続き、ニューヨークで節約生活を強いられていた際にお世話になったお店、近所にあった「旨い！安い！多い！」店の紹介 Part-2。重ね重ね、雑誌やテレビで紹介されるようなオシャレで品のあるレストランなどとは無縁に等しく、また、かれこれ 10 年ちょっと前の話なので、現存しているか定かではなく、ほとんど役立たないかもしれないが、どうかご勘弁を。

まずは、West 79th Street 沿い ~ Amsterdam Avenue と Broadway の間にあった「Cafe 2000」という店。チェーン店ではなく、台湾人の若いオーナーが経営していた可愛いらしいカフェだった。よく朝食やランチの時に、また、この店の数件先があり、いつも利用していた中国人一家が経営するコインランドリーがあったせいか、この「Cafe 2000」には頻りに足を運んだ。

クロワッサンにチーズと卵焼きを挟んだサンドイッチにコーヒーを注文することがほとんどで、店内の白いテーブルを囲み、のどかな一時を過ごしたものだ。また、よく店を訪れるため、いつもニコニコと人の良さそうなエドワード・チェンという台湾人の若いオーナーとも親しくなったが、彼の笑顔を見る度に和やかな気分になった。彼の笑顔同様、土地柄と店の雰囲気も良かったいせいか、端から見てもそれなりに繁盛している様だった。100 万ドル(?)の笑顔を持つエドワードも、今も元気に働いているに違いない。

また、「McDonald」についても触れておきたい。よく利用したのは、West 71st Street と Broadway の角にあった「McDonald」で、朝や仕事帰りの夜などによくお世話になった。日本でも良く言われるように、向うのドリンクのサイズはほぼ 1 サイズずつ違っている様で、M サイズを注文すれば日本の L サイズ、L サイズを注文すれば日本には存在しない LL サイズと、更に、他のハンバーガー店ではバケツのような King サイズなる代物も用意されていたりするが、とても日本人には飲み干せるような量ではない。

だが、日本のマクドナルドが優るのは、メニューの多さだ。季節毎や定期的にオリジナルのハンバーガーや、マックシェイクなどを売り出すなど、客を飽かさせないサービスも充実しているが、当時向こうでは昔ながらの決まったメニューしかなかった。彼らは質より量というか、「McDonald」の存在が生活の中に完全に溶け込んでしまっていて、種類が少ないなどという観念がないのかもしれない。また、自分もマンハッタンのレストランで働いていたので実感しているのだが、アメリカ人は好みにとてもらうさい。もちろん全てのアメリカ人に当てはまるわけではないが、うるさいというよりははっきり言ってわがまま…。

やれ、辛いのが苦手だとか、チーズがダメだとか、玉ねぎは入れないでくれとか、肉にはもっと焦げ目を付けてくれなど、レストランならまだ分かるが、「McDonald」や「Burger King」でもこのような注文を付けるのだ。日本ではあまり見られない光景で、日本人はメニューにあるものを黙って食べるのが常識という感もあって、食べられないものがあれば、食べる前に自分で取り除いたり、その店に行かなければ良いという考えがあるのかもしれない。しかし、一部のアメリカ人にはそんな考えは通用しない。自分で注文しておいて味が好みに合わないと、「交換してくれ！」だの「金は払いたくない」など、そういう場面には何度も遭遇した。

そんな訳で、もし向こうで日本のマクドナルドのような豊富なメニューが登場した日には、収拾が付かなくなるかもしれない。王道のメニューしかないのも充分頷ける。いずれにせよ、依然アメリカでの「McDonald」の人気は不動だ。また、日本ではまず考えられないが、かなりの高齢者の人たちがハンバーガーを美味しく食べる光景も珍しくなく、West 72nd Street 界隈は環境も良かったいせいか、高齢者がたくさん住んでいたようで、昼夜を問わず店内にその姿が目立った。まさにマクドナルド恐るべし。

次にご紹介するのは、通称「コリアンデリ」と呼ばれる韓国人経営のデリカッセン。日本で言うならコンビニのような存在だろうか。よく足を運んだのは、Amsterdam Avenue 沿いの Upper West にあったデリだ。ほとんどの「コリアンデリ」には、たたみ2畳分くらいのスペースにたくさん種類の食べ物かステンレス製のプレートに入れて並べられ、自分で食べたい物を好きなだけ、プラスチック製のボックスに入れ、レジで重さによってお金を払うという、ビュッフェ・スタイルのようなテイクアウト・フードが並んでいた。ギョシリ詰めても 5-6 ドルくらいで、自分で好きなものを入れられるというスタイルが好まれ、結構な人だかりができる時もあった。

最後に、ニューヨークで節約生活を強いられ、食事にはこだわらなかった自分にとっても、日本人である以上、時には日本食が恋しくなることもあった。そんな時に利用した日本食関係の店を紹介したい。当時ニューヨークで暮らしていた日本人なら誰でも知っていた、Times Square 近辺の West 43rd Street 沿い、6th Avenue と 7th Avenue の間にあった「三福 (さんぶく)」という店。コリアンの夫婦が経営する日本食を扱う小ぢんまりとしたスーパーのような店で、店内には日本では馴染みの食品類はもちろん、食器類や日用品、そして、日本のテレビ番組を録音したビデオテープを 1 週間 3 ドルで貸し出すレンタル・コーナーもありよく利用した。そして、マンハッタンから専用のミニバンの乗って 20 分くらい。ニュージャージーの川沿いに佇み、マンハッタンの西側の景色が一望できる場所にあった日本食スーパー・マーケット「Yaohan」の存在も忘れられない。店内には(確か)「富士」というレストランもあって、窓際から見える景色も最高で、マンハッタンの雑踏から離れたのんびりとした一時を過ごすには最高の場所だった。